

## 情報活用能力の育成

### I 研究の内容

教育活動において、「社会の情報化」という時代の動きを無視することはできない。それは、情報機器が人と人との情報伝達をより活発にするという方向に拡大しているからだ。教育は、子どもたちへ知識や技能、考え方などの能力を教える活動だ。だから、教育にとって効果的な情報機器の利用は自然の流れとなる。ICT を活用することにより子どもたちの学習に対する意欲や興味・関心を高め、思考力や判断力、表現力を高める教育活動の実現が求められている。

本部会では上記テーマを設定し、児童の情報活用能力の育成と教員の指導力向上を目指し研究を進めた。

#### 1 研究の方法

- (1) 部会のテーマ「情報活用能力を高める研究」に沿った授業実践について研究し、研究協議を行う。
- (2) 情報機器に対するスキルを高める。
- (3) 部会員の情報活用能力を高めるための研修を行う。

#### 2 研究の具体的内容

##### (1) 情報機器の活用と授業研究

###### ①授業研究 8月29日

第6学年 算数科学習指導「形が同じで大きさがちがう図形を調べよう」

###### ②主な研究内容

今年度は、タブレットを活用した授業展開を取り入れ、効果的な機器の利用とその活用方法について研究を進めた。タブレットを授業に取り入れることにより得られる効果として考えられるものに、次のようなことがあげられる。

- ア) 子どもたちの興味関心をひきつけることができる。
- イ) 子どもたちが直接撮影等の操作ができることにより、主体的な活動の一助となる。
- ウ) 視覚的にとらえられることにより、発表や説明がより分かりやすくできるなど、子どもたちの発表や説明のツールとして有効に活用できる。
- エ) 動画の記録、動画の静止や再生の繰り返し、拡大縮小等が簡単にできることにより、伝えたいことの詳細やポイントを逃さずに発表や説明ができる。
- オ) 台数が揃えば、グループでの学習や調査等（インターネットや学習ソフト等を含む）に利用し、共有できるなど、その場で有効に活用できる。

タブレットだけでなく、情報機器を利用することの大きな利点としては、ア)の「子どもたちの興味関心をひきつけることができる」ということがあげられる。多くの授業では、話し言葉や文字や図表などが使わ

れることが多いが、動画や画像といった視覚的なとらえや操作性のある機器の利用によって、子どもたちの興味関心をひきつけることは比較的容易である。また、タブレットの他の機器とはちがう利点として、エ)の「動画の記録、静止画像や再生の繰り返し等が簡単にできる」ことがあげられる。発表や説明時に、静。止や再生の繰り返し等が簡単にできることによって、子どもたちが伝えたいことのポイントを逃さず、効果的な発表や説明が展開できることが期待できる。さらに、イ)の「主体的な活動の一助」やオ)の「その場での活用」にあげられるように、子どもたち自身がその場（学習しているタイムリーな場）で操作や撮影ができること（可搬性）により、主体的、積極的に学習活動や発表活動に取り組めることにつながっていくことが期待できる。

### ③ 指導意図

授業では、タブレットを用いることにより、子どもたちの興味関心と主体性、積極性を促すとともに、グループ活動をベースとし、子どもたち自身が操作して撮影した映像（動画や静止画像、再生の繰り返し、拡大縮小等）を利用し、効果的な発表や説明の学習に活かす。また、図形の作図に関しては、かき方や説明の仕方等をグループ内、あるいは学級全体で、映像や説明などで確認しながら学習を進めることにより、子どもたちの学習内容の理解と技能の獲得、説明力の向上などの定着に役立てていけるようにする。

## II 成果と課題

### 1 成果

- ・タブレットの活用など、年度当初の部会テーマに沿った研究を行うことができた。タブレットでは、児童が新しい操作方法を発見したり、活用の方法を工夫したりするなど。想定を超えた活用ができていたと思われる。スカイプを用いた話し合い活動では、大画面に映し出された児童が、まるで目の前にいるような感覚で話し合い活動を行うことができ、遠隔地との交流学习の可能性を知ることができた。

### 2 課題

- ・市町村により、情報機器に関する体制に差がある。善し悪しは別として、すぐに実践できないのが残念である。

## III 研究の成果物

第6学年 算数科学習指導案 単元名「形が同じで大きさがちがう図形を調べよう」

第3学年 総合学習指導案 教材名「他の学校の友達と交流しよう」

（部長 滝島正彦）